

高付加価値観光による効果的なインバウンド観光客 誘致

本論文は、観光を抑制することなく日本の観光地で起きているオーバーツーリズムの問題を対策しながらも、観光を抑制することなく観光収入を伸ばすための取り組みとして高付加価値観光に可能性を見出した。観光収入を伸ばすための高付加価値観光の効果的な推進方法を明らかにするのが、本論文の目的である。「高付加価値観光の推進のためには、高付加価値観光に取り組む組織の資金調達的手段が確保された上で、観光庁が高付加価値観光推進のために掲げる5つの要素のうちの、ウリ・コネの強化がより重要である事が重要である」という仮説をたて、証明を行った。

日本の高付加価値観光が発展途上にある現状から、日本での事例のみを扱い考察、分析を進めることは適切ではないことが分かり、高付加価値観光の成功事例国であるフランスになれば、高付加価値観光の効果的な推進への取り組みを考察し、仮説の証明を行った。また、その際に、観光庁が「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」で掲げているウリ、ヤド、ヒト、コネ、アシの5つの観点を要素として適用する。

フランスでは、政府がウリ、コネを強化するための取り組みを行っていることが明らかとなった。また、その取り組みを実行する団体は資金調達的手段を確保しており、これらのウリ、コネを強化するための取り組みは資金調達的手段が確保されている事が前提にあることが分かった。フランスでは、取り組みが本格化した2018年から2024年間に国際観光収入が555億ユーロから710億ユーロへと大幅な成長を遂げた。このことからフランスの、資金調達的手段を確保した上でのウリ、コネを強化する取り組みは観光の高単価化、つまり高付加価値観光の推進に効果的であることが分かった。

以上より、「高付加価値観光の推進のためには、高付加価値観光に取り組む組織の資金調達的手段が確保された上で、観光庁が高付加価値観光推進のために掲げる5つの要素のうちの、ウリ・コネの強化がより重要である事が重要である」という仮説が証明された。先述の通り日本の高付加価値観光は発展途上であるため、本論文で証明された仮説の観点を持ちながら、日本の高付加価値観光の今後の動向に注目したい。